

キアイの仲間たち

気合ではなく木藍。藍染めの材料になる植物です。日本ではおもにタデ科草本のアイ (別名タデアイ) が用いられますが、インドから東南アジアにかけては、マメ科灌木のキアイ (別名インドアイ) が主流のようです。



最近購入した草木染めの本を読んでいたら、キアイの近縁種としてナンバンコマツナギというのが紹介されていました。アメリカ原産ですが、藍染めの材料としてはこちらのほうが優れているようで、キアイの自生地でもさかんに栽培されているとのこと。写真を見て、あれっと思いました。そこら中の道路法面(刈刈)の緑化に使われている、「中国産コマツナギ」と呼んでいたものとそっくりなのです。ひょっとしたら同じものかもしれないと思い、インターネットで調べてみました。

ナンバンコマツナギは「島藍」の材料として、八重山諸島でも栽培されているそうです。ただし熱帯性で、八重山以北では育たないとのこと。明らかに別種です。

中国産コマツナギは、在来種のコマツナギと同種あつかいされたこともある、大変うさん臭い存在でした。一時はキダチコマツナギ (木立駒繫) と呼ばれ、最近はトウコマツナギ (唐駒繫) という和名が定着しつつあるようです。

さて、このトウコマツナギ。キアイやナンバンコマツナギの近縁種です。だからと言って必ず藍染めの材料になるとはかぎりませんが、量的には身近に腐るほどあります。試してみる価値はあると思うのですが……。